



## 子ども大学たかやまを開催

高山エネルギー大作戦3年目の展開の柱として、未来の高山を担う子どもを主役に考えたフォーラムイベント「子ども大学たかやま」を3月5日、6日に開催しました。応募の小学生70人が飛驒・世界生活文化センター飛驒芸術堂に集まりました。

2日間で4つの講義。講師は現役の大学教授たち。保護者や一般の市民も見守るなか、子どもたちは授業に真剣に聴き入り、教授たちの問いかけに大人も驚くような立派な意見をたくさん答えてくれました。

1時間目のエネルギーの講義と4時間目の平和の講義に登壇された佐々木寛教授は「聞き手に助けられました」と高山の子どもたちに感心しきり。2時間目のお金の講義に登壇された西部忠教授も「自分が真に伝えたいことは何なのか逆に問い直されました」と語り、3時間目の社会の講義に登壇された宮台真司教授が「(自身の)スキルアップになりました」と語るなど、高山の子どもたちは教授たちにも大きな刺激となったようです。

特製の学帽をかぶった70人の「卒業生」たちは、高山の未来、わたしたちの誇りそのものです。



ささきひろし  
佐々木寛教授



みやだいしんじ  
宮台真司教授



にしべまこと  
西部忠教授

子ども大学の講義は市ホームページでご覧いただけます(広報ID 1005255)

## 高山市自然エネルギーによるまちづくりに関する提言書

高山市自然エネルギーによるまちづくり検討委員会の2年間にわたる議論を集約した提言書が作成され、1月20日、菟谷副委員長より國島市長に手渡されました。以下の4項目からなる提言書です。

### 提言 1

「持続可能な森林経営と森林資源の適正な需要拡大を推進するとともに、木質バイオマスの安定供給を実現する仕組みを構築すること」

### 提言 2

「地域の民間事業者が主体となった公益性のある熱供給ビジネスの創出により、木質バイオマスの需要先の拡大を図ること」

### 提言 3

「公共施設において、民設民営の木質バイオマスによる熱供給ビジネスのパイロット事業を実施し、そのノウハウを蓄積・共有化することにより、地域における人材育成を推進すること」

### 提言 4

「自然エネルギーによるまちづくりの将来像の共有化や自然エネルギーを推進する体制を整えることにより、自然エネルギーの利用を促進すること」

さらに提言書では、4つの提言で掲げている内容の中で、多くの市民、事業者等が参画し、自然エネルギーの導入拡大に資する、基軸となる以下の3つの取り組みが「飛驒高山モデル」として提案されています。

1. 「フォレスター※1による  
木質バイオマスサプライチェーン※2の構築と管理」
2. 「地域の民間事業者が主体となった  
公益性のある熱供給ビジネスの構築」
3. 「オール高山で自然エネルギー利用を  
推進する体制づくり」

※1 フォレスターとは、森林・林業・環境に関する専門的かつ高度な知識などを有する森林総合監理士をいいます。

※2 木質バイオマスとは、木の伐採や造材の時に発生した枝、葉などの林地残材など木材がらなるエネルギー源のことで、サプライチェーンとは、原料の段階から消費者に届くまでのつながりのことです。